

2011 AUTOBACS SUPER GT 第7戦
SUPER GT IN KYUSHU 250km RACE

2011年10月1日(土)~10月2日(日)

決勝 レポート

54 Laps

今季2勝目！ポールトゥウインを達成



場所:オートポリス / 天候:曇り / コース:ドライ / 気温:17℃ / 観客動員数:23,500人

2011年SUPER GT シリーズ第7戦の決勝を迎えたオートポリス(大分県)は、曇り空ではあるが特別天候の変わる様な状況ではない。昨日のスーパーラップで使用したタイヤは、ソフト目のタイヤである。スーパーラップで使用したタイヤを決勝スタートで使わなければいけないルールである為、スタートドライバーは、いかにそのタイヤを持たせ周回数を稼ぎ、ピットインするかがカギとなる。チームは午前中のウォームアップ走行でも更なるセットアップを探った。

10月2日(日)

<決勝 / 午後2時~>

300クラスのポールシッターである#62 R&D SPORT LEGACY B4は、山野哲也がスタートを受け持ち、好スタートを決めトップでメインストレートに戻ってくる。しかも2位に1.4秒の差を付けている。5周目には2番手に6.5秒の差を付ける素晴らしい走りである。チームは山野に出来るだけタイヤを持たせるよう指示を出す。山野もそれに応えつつ順調にタイム差を広げていく。24周目、2位に10秒の差を付けピットイン、完璧なピット作業を終え、佐々木孝太がピットアウト。佐々木も完璧な走り続け他車との差を広げていく。結果、今季2勝、



www.rdsport.net

それも、他車を寄せ付けぬ完璧なポールトゥウィンでレースを終えた。
なお、500クラスの優勝は#38 ZENT CERUMO SC430が制した。



■本島監督 コメント



今回は素晴らしい勝ち方が出来ました。
やっと強いチームになれたような気がします。
ここまで来れたのも、皆様の応援があってこそと
感謝しております。終戦、茂木も気を引き締め
表彰台を狙っていきます。



■山野 哲也 コメント



過去に例がないほど、パーフェクトなレースだったと思います。レガシィ B4 にとっては初めての オートポリスながら、マシンの状態はサーキット持ち込み状態からとてもよく、微調整だけで速いタイムを刻むことができました。予選では孝太がいいアタックを見せ、レガシィ B4 史上初となるポールポジションを獲得することができました。唯一の不安だったタイヤのライフは第1ステイントを担当した山野に託されました。スタートはうまくいき、後続の FIA 勢に追いつかれることなく第1コーナーをクリア。最初の3周を逃げられるだけ逃げました。その後はフロントタイヤをいたわり、その結果ピットインを24ラップまで延長することができました。孝太も後続との差を広げトップチェッカーを受けました。レガシィ B4 の進化を大きく感じる事となったオートポリス戦、ファステストラップも獲得し、自分自身に忘れることのできない誕生日プレゼントとなりました。素晴らしい体制をつくってくれただけでなく、ハートフルなセレモニーまでしてくれたチームメンバーに、心から感謝しています。

■佐々木 孝太 コメント



オートポリスは僕が大好きなサーキット。コースレコードホルダーでもある。今回は2勝目をするならここだ！という気持ちで来ました。LEGACY B4 も走り出しからバランスがよくセッティングも微調整で対応でき予選にも決勝にも手応えを感じました。そしてポール to ウィンという最高の結果を残すことが出来ました。最高の車を用意してくれたスタッフに本当に感謝します。残念ながらチャンピオンにはもう届きませんが、シリーズ2位を目指し、最終戦も頑張ります！

決勝の詳細に関しては SUPER GTホームページ <http://supergt.net/jp/>
またSUBARUモータースポーツニュース <http://www.subaru-msm.com/news/> もご覧ください

2011年10月2日
SUBARU LEGACY B4
TEAM アールアンドデースポーツ
<http://www.rdsport.net/>



www.rdsport.net